

学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会 学校教育推進室 平成 26 年 10 月 2 日
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目 1 番 1 号 TEL06-4309-3268

- 東大阪市学校教育基本目標
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標
 - 総合的視点に立つ教育の推進
 - 人間尊重に徹した人権教育の実践
 - 信頼に応える学校園経営
 - 学校園・家庭・地域の協働

今年も全学校園で

大阪880万人訓練を行いました!

「訓練、只今、大阪府下に大きな地震が発生しました。机の下に入り、揺れが収まるまで待機して下さい。」

しばらくした後、「揺れは収まりました。先生の指示に従い、速やかに避難をして下さい。」と教頭先生の声が放送で響きます。

これは、9月5日(金)午前11:00、防災無線の受信を受けての上小阪中学校での様子です。その後、生徒たちは避難する際の約束、“押さない、走らない、しゃべらない、戻らない、近づかない”を守り、グラウンドへの避難行動を行いました。

校長先生からは、前回と比べて生徒たちの避難行動や、先生方の安否確認が素早くできたことが非常によかったとの講評がありました。さらに、地震などの災害時・非常時には、1人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うためのトリアージという手法が取られること等の話が図を示しながらあり、生徒たちは真剣に聞いていました。

今年で3年目となる、『大阪880万人訓練』は、地震等の災害が起こったときに、一人ひとりがどのように行動したらよいのかを日頃から考え必要な準備をした上で、とっさに行動ができるようにすることをねらいとしています。

今年度も本市立全学校園で、訓練として、「机の下に隠れる。頭を守る。」等の身の安全を守る行動、ビデオ視聴またはパンフレット等を活用した講話等を実施しました。

また、家庭や地域と連携した訓練として、地域の自治会や保護者と合同で避難訓練を実施したり、避難後の園児の保護者への引渡し、幼稚園から小学校への避難等に取り組んだ学校園もありました。

今後も様々な事態を想定した避難訓練を実施し、子どもが主体的に考え行動できる態度(=自助)を育成するとともに、支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識(=共助)を高める防災教育を推進していきましょう。



“まず、頭を守る”(上小阪中)



“地震の時は…”(縄手南幼)

小学生に防犯ブザーを配付します

全国各地で、子どもたちが犯罪に巻き込まれる事件が発生し、安全な生活が脅かされています。東大阪市においては大きな事案は発生していませんが、声かけやつきまといなどの被害は報告されています。子どもたちの安全の確保を図るため、東大阪市ではトライくんをかたどった防犯ブザーを製作し、後期から活用できるように全児童に配付します。

防犯ブザー5つの確認

- ① すぐ使用でき、目立つところに付けましょう
- ② いざというときに鳴らせるように使い方を確認しておきましょう
- ③ 学校から帰宅後に外出する場合でも、忘れずに持って行きましょう
- ④ 防犯ブザーが鳴っていたら、大人の人に知らせましょう
- ⑤ 日頃から音が出るか確認しましょう



平成26年度「連携教育担当者連絡協議会」

東大阪市では、学力向上の取組みである「学びのトライアル事業」の一環として、小学校から中学校への円滑な接続、いわゆる「中1ギャップ」の解消をめざし、連携教育を進めております。中学校区での「生徒指導体制」及び「学びのスタンダード」の確立に向け、平成26年度第2回「連携教育担当者連絡協議会」を9月30日(火)に行いました。



第1部では、東大阪市立中学校の連携教育担当者が作成した『連携教育推進計画』を基に、中学校区で連携を行うために“どのような組織づくりを行ってきたのか”について交流を行いました。

第2部では、大阪大学大学院 人間科学研究科 志

水宏吉 教授をお招きし、「学力向上と小中連携」についてお話しいただきました。「昔は、都会と田舎で学力の格差が見られたが、今は、“離婚率”“持ち家率”“不登校率”と学力の相関関係が高い。いわゆる人間関係のつながりの豊かさが学力と関係している。親子や近所、友だちや先生とのつながりを再構築することが必要である。」「見えない学力(関心・意欲・態度)を育てるためには、地域での生活や家庭教育がたいへん重要である。地域によっては、学校教育がそこを担わなければならない。」「“力のある学校”というのは、しんどい子どもを下支えし、全ての子どもをエンパワーする(本来持っている内なる力を最大限に引き出す)学校であり、まずは、大人がエンパワーされる必要がある。そのためには、“子どもがどっちに行ったらいいのか”という目標を教職員全員で共有し、明確な目的を持った連携を行うことが大事である。」というご示唆をいただきました。そして最後に、「一人でやることには限界がある。みんなでやると、一人では到達できない次元に達する。“個々の力”から“学校の力”、そしてさらに、地域との協働へとつなげていってほしい。」というお言葉をいただきました。



参加した教職員の感想

- 全体の役割を任されて、自分一人ですることが少ないことを痛感し、仲間を上手に増やして学校をまわしていかないといけないと必死です。「一人ひとりの生徒を大切にできているか、こだわられているか」ここにこだわり、自分が中心となってもう一度やり直さなければと強く思いました。まずは“学力の樹”の根っこからつくっていきたいです。キーマンは自分だと思えます。
- 子どもたちの学力保障・学力向上のために小中で連携し合うこと、教員どうしが気持ちをそろえて互いに助け合うこと(スクールバスモデルのエンジン)の必要性を改めて感じました。その中で「中学校の授業を見に行っていたことがあるか」と問われましたが、私は本校に来て1年目ですが、まだありません。頭では理解していても行動できていない自分と向き合う機会をいただいたと思います、今後に活かしたいと思えます。